

## 第52回国際木材保存会議（IRG52）に向けた IRG52実行委員会の活動について

木 口 実\*

### 1. はじめに

国際木材保存会議(The International Research Group on Wood Protection：以下 IRG と略)の第52回年次大会（IRG52）は、2021年の5月9日～13日に静岡県沼津市のプラザヴェルデにて開催される。ここではまず、開催に至るまでの経緯とIRG52実行委員会の活動について示し、続いてIRG52日本大会の概要をご案内したい。

### 2. IRG 日本開催に向けた当初の取り組み

IRG 日本開催については、IRG22（1991）京都大会とIRG32（2001）奈良大会から長い年月が経過していたことから、2010年代に最も積極的にIRGに参加し、当時IRGのSPC（Scientific Programme Committee）のSection 4のchairだった森林総研の松永浩史氏宛に、IRGの要職を歴任しているAlan Preston氏から、EC（Executive Council）から託された公式な打診（2015年1月6日）があったことに遡る。ちなみにPreston氏は、第30回日本木材保存協会年次大会（2014）の公開シンポジウム「日本と世界の木材保存はどこに向かうのか？」の演者を務め<sup>1)</sup>、日本でも馴染み深い存在である。これを受け将来的なIRG日本開催を見込み、2015年度第3回理事会において「協会からの拠出積立金（100万円/年）」を2016年度から開始することが決められた。これを受けて、2016年度国際交流部会会議（松永浩史部会長、田中邦昭委員、事務局）が2016年9月6日に開催され、事務局から、①国際交流部会を中心に開催検討委員会等を設置し、②日本木材保存協会の体力

に相応しい具体的案（開催の意義、場所、内容、経費等）を理事会に複数提案して欲しい旨の指示がなされた。部会会議では、第1回開催検討委員会を2016年11月に開催する、委員の割合は企業と学術から半々とする、場所を仮設定して大・中・小の経費プランを立案する、公益法人として相応しい案とし正副会長会議において開催・非開催の検討が出来る中立トーンとする、が確認された。

第1回IRG開催検討委員会（松永委員長、茂山知己委員、手塚大介委員、田中邦昭委員、築瀬佳之委員、吉田誠委員、事務局）は2016年11月22日に開催された。事務局からは、2021年開催で立候補、収入見込み（1,200万円）、企業会員等からの寄付、3開催場所の提案（宇都宮、横浜、沼津）が示された。論議の結果、検討委員会では開催の可否、開催地や費用についての意見具申はできないとし、理事会（正副会長会議）での検討の参考となるよう検討委員会での意見を列挙して報告することとなった。意見としては、開催する場合には2021年開催で1,200万円の予算が相応しいこと、日本開催の意義を明確にすること、日本にメリットがあるローカルルールを策定すること、ボランティアのメリットを示すこと、協会拠出積立金が重要であること、協会のリーダーシップ発揮と事務局ベースで作業を推進すること、などが挙げられた。

これらを受けて、第1回IRG組織委員会（今村祐嗣委員長、鮫島正浩委員、関澤外喜夫委員、藤井義久委員、松永浩史委員、山本英樹委員、事務局の参加）が2017年8月8日に開催された。先ず、事務局より2021年度の開催と開催費用1,200

\*IRG 実行委員会委員長

万円が2016年度第3回理事会で決定されたことが報告された。宇都宮、横浜、沼津については、現地調査及び見積書を入手した結果、見積金額が一番低く富士山と海が見える場所であることを踏まえ沼津が推奨された。開催年月日は2021年5月9日(日)～13日(木)とし、沼津の会場を仮予約することが決定された。IRG本部からの費用支出、寄付金(協賛金)、協会拠出積立金等について多くの疑問が発生したため、後日、島崎会計事務所等に相談・調査して報告することとした。事務局から、IRG組織委員会は決定機関と位置付けるため、実際の実務を担当するIRG52実行委員会(開催検討委員会を発展)を組織したいとの提案がなされ了承された。

第2回IRG組織委員会は、2018年3月8日に開催され、2018年3月末日までにIRG本部に提出する必要のある「開催地として立候補を表明する書類」の確認などが行われた。IRG組織委員会の活動については、「木材工業」誌に記事を掲載したので、ご参照願いたい<sup>2)</sup>。

### 3. IRG52実行委員会の活動

第1回IRG52組織委員会における提案を受けて、IRG52実行委員会は木口実(日大教授)を委員長に13名で組織され、第1回委員会を2018年7月9日に開催した。主な議題は、開催場所等決定事項の報告、事務局が参加したIRG48とIRG49の概要報告、IRG50とIRG51への派遣、プログラムの検討、開催費用などであった。特に、IRG52の英文要旨を翻訳して発行する日本語要旨集は広告集めの一手法として重要であることを確認した。



図1 富士山を配したIRG52日本大会のロゴ

また、IRG52のロゴをタナカ印刷(株)の協力を得て作成し(図1)、「木材保存」誌の45巻2号から表紙に添えることにした。

第2回IRG52実行委員会を、2019年6月3日にIRG52の開催地である沼津市のプラザヴェルデで開催した(図2)。会場内の視察では、メインセッション会場、ワーキンググループ発表会場、昼食会場、ウエルカムパーティー会場、ポスター会場、受付場所の動線や広さなどを確認した。資金集め(賛助金)については、依頼文の最終決定、特典内容(プラチナ・ゴールド・シルバー)の中身を詰め、事務局で最終作業を進め7月中には発送できる態勢とした。翻訳冊子の実行性と難易度については、2019年3～4月に行った試行結果を纏めて今後再度検討することとした。冊子は広告掲載・賛助広告の掲載の媒体なので重要であることを再確認した。役割分担、ワンデー登録(日本人が部分参加できる方法)、アルバイト・ボランティア、エクスカージョンについても論議を行った。IRG51スロベニア大会への参加、ホームペー

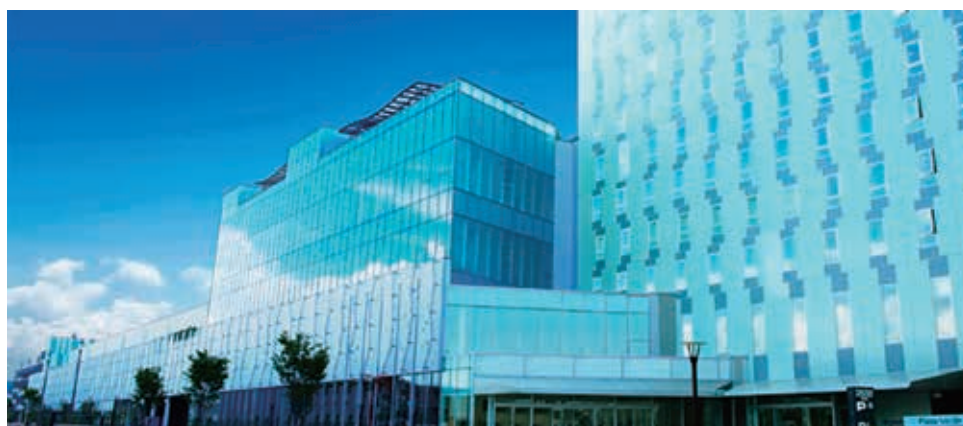


図2 会場となる沼津市のプラザヴェルデ

ジの立ち上げ準備、宿泊ホテル、昼食内容等については今後の課題とした。その後、徒歩でバンケット会場のリバーサイドホテルに移動し、更にタクシーで沼津港に移動し IRG 会長招宴予定のレストランを視察し委員会を終了した。表1に実行委員会の名簿を示す。

第3回 IRG52実行委員会を、2020年7月8日にエッサム神田10階ガーデンホールでの対面会議及び Zoom 利用のオンライン会議として開催した。まず、IRG52の開催方法を検討し、①通常開催、②通常開催+Web 開催 (Webinar)、Web 開催 (Webinar) の3通りを想定して準備することを確認した。具体的な役割としては、IRG 本部との交渉、Web 開催を想定した準備、特別セッション内容の決定、イベント内容 (Fun Run ジョギングイベント、ウエルカムレセプション次第、会長招宴次第、ポスターレセプション次第、バンケット次第、弁当メニュー、コーヒーブレイクなど) の決定、エクスカージョン及び随行者ツアーの企画と添乗、お土産・配布物の決定、日本語版ホームページの開設、IRG 本部英語版ホームページへの情報提供、受付と会場担当 (マイク、ファイル受付と PC 格納、委員とアルバイトは対) を想定した。それぞれの役割に対して委員の貼り付けを行った。なお、IRG52の日本語版ホームページ (<http://www.mokuzaihozon.org/irg52/index.html>) は、8月中旬に日本木材保存協会のウェブサイト上に開設した。一方、IRG52の英語版ホームページは7月から IRG 本部のウェブサイトトップページ (<https://www.irg-wp.com/>) の下部にロゴマーク (図1) と共に開設されており、徐々に詳細情報を追加して行く予定である。

4. 国際木材保存会議について

#### 4. 国際木材保存会議について

IRG は、1965年にオーストリアで発足した木材保存の専門家グループを母体とし、1969年に経済協力開発機構 (OECD) により設立された伝統ある組織である。当初の会員は9か国22人であったが、現在は51か国350名の会員からなる国際的組織となっている。IRG の目的は、木材保存に関する研究を世界的に推進することであり、具体的には、1) 木材保存に関する科学技術情報の国際的意見交換のための年次大会開催、2) 若手奨励賞の授賞、3) 共同研究の補助、4) 規格・ガイドライン作成のための場の設定、5) 研究成果の素早い公表・普及である<sup>3-5)</sup>。最も重要な年次大会は、持ち回りにより世界各国で行われ、日本では1991年に京都で<sup>6)</sup>、2001年に奈良で開催された<sup>7,8)</sup>。

#### 5. プログラムと特別セッション

IRG 年次大会は、5つのワーキンググループ (WG) で構成されている。各 WG は、WG-1生物学：腐朽菌、バクテリア、シロアリ、木材加害昆虫と木材とのかかわりを対象とし、腐朽の生態学・生理学、生物的防除、気候などを木材との関係で明らかにする分野、WG-2規格・分析法：木材保存剤の効力や持続性を評価する実験方法やデータ解析法、木材の耐久性に影響する物理的・化学的因子の解釈、劣化の進行の診断、処理による薬剤の分布や組成の評価などに関する方法論についての分野、WG-3保存薬剤：木材中での薬剤の化学的な挙動の追跡、薬剤の性質や特性の解明、未乾燥材の運送中や保管中の劣化を防ぐ方法の開発などに関する分野、WG-4処理方法：処理工程が薬剤の分布や効力に及ぼす影響、処理管理技術、前処理と後処理、プラントの設計、化学修飾・熱処理方法と性能などに関する分野、WG-5環境問題：使用中の処理木材からの薬剤の移動、処理木材の廃棄、環境汚染など木材保存薬剤と環境との

表1 IRG52実行委員会のメンバー

氏名	所属
委員長 木口実	日本大学
副委員長 松永浩史	森林総合研究所
委員 石川敦子	森林総合研究所
金指なお美	ランクセス株式会社
茂山知己	株式会社ザイエンス
瀬山智子	東京農業大学
手塚大介	兼松サステック株式会社
西澤翔太	大日本木材防腐株式会社
福原英晃	BASF ジャパン株式会社
森田珠生	越井木材工業株式会社
築瀬佳之	京都大学
矢原顕	ロンザジャパン株式会社
吉田誠	東京農工大学
財務担当 鈴木昭	公益社団法人日本木材保存協会
渉外担当 山本幸一	公益社団法人日本木材保存協会

かわりに関する分野を対象としている。近年の発表件数は、口頭発表が100件、ポスター発表が30件の130件程度なので、IRG52でもその程度の発表件数が想定される。

初日の開会式では、IRG 会長挨拶に加え、地元自治体のご挨拶を予定している。30分ほどの総会に続いてキーノート講演に移るが、話題としては「CLTを用いた大型建築物の保存処理」或いは「木材腐朽機構の基礎研究」等を候補として考えている。その後、メインセッションとして上記のWG1～WG5から選ばれた5つの代表論文が、全員参加の下で論議される。午後からは、2～3の会場に分かれて種々のワーキングセッション（例えば、野外暴露試験、室内腐朽試験、処理方法と処理性、表面処理、修飾木材、品質管理、素材耐久性、耐用年数予測木橋、環境と持続性など）が始まり、この形式のセッションが連日行われる。最終日の午後には全員参加による特別セッションがあり、オンライン開催となったIRG51スロベニア大会から引き継がれた「表面処理と耐候性」、「海中での被害」がテーマとして挙がっている。

## 6. 各種イベント

大会では、開催初日にウエルカムレセプションが行われる。ホテルのプールサイドや会場の中庭など屋外で開催される例も多いことから、会議場5Fの屋上庭園で開催を検討しており、天候が良ければ愛鷹山越しに富士山の頭を望むことが期待できる。催し物は、三島市にある日本大学国際関係学部・短期大学部のサークルによる軽音楽を予定している。

2日目には、IRG 会長主催のレセプションが、ロン・コックロフト賞受賞者（RCA）、新会員、IRG 役員などの参加で、沼津港のレストランを会場として開催される。RCAは、年次大会毎に12名ほどの若手研究者に授与され、近年は日本の受賞者も増えており、若手研究者間の交流が期待される。

3日目にはポスターセッションが口頭発表終了後の夕刻に行われる。ホワイトと呼ばれる口頭会場前のロビーがポスター会場となり、ポスターパネルの脇に飲み物と簡単なつまみが準備され、グラスを片手にして論議をする気楽な雰囲気を演出



図3 富士山本宮浅間大社



図4 リバーサイドホテルのバンケット会場

したいと考えている。この形式は、IRG ではポスターレセプションと称されている。

4日目は、午前の口頭発表が終わると直ちに弁当を受け取り、バス数台でエクスカッションに出発する。世界遺産に含まれる富士山本宮浅間大社（図3）、富士山世界遺産センター、白糸の滝を見学し、富士山スカイラインを經由して御殿場ビールで夕食を楽しむコースを想定している。世界遺産センターの建物は、ウッドデザイン賞2018 特別賞「木のおもてなし賞」を受賞しており、県産のヒノキ材を用いた木格子が「逆さ富士」の外観を形成し、湧き水を引いた水盤に「正富士」が見えるように工夫されており、参加者にはこの点を上手に説明したい。

最終日は、会場から徒歩で15分程のリバーサイドホテルにて、18時からバンケットを開催する（図4）。狩野川の眺めが美しいバンケットホール前のロビーでは、地元の和太鼓団体の子供太鼓で入場を歓迎したいと計画している。バンケットでの出し物は、「熱海芸妓」による踊りや三味線、和

太鼓団体の太鼓を予定している。

## 7. 大会参加と発表申し込み、及び「一日参加」の申し込み

2020年末には参加登録・発表受付が、IRG 本部のホームページ (<https://www.irg-wp.com/>) で開始される予定である。図1に示した「IRG52日本大会のロゴ」をクリックすると、メニューに参加登録 (Registration) が現れるので、名前・所属・メールアドレス・クレジットカードの番号などを埋めて送信すれば登録は完了となる。研究発表には口頭発表とポスター発表があり、口頭発表では所定のフォーマットによるフルペーパー (完全な論文形式) が求められ、締切は2021年3月1日である。一方、ポスター発表では要旨 (1~2ページも可) のみで受け付けられ、締切は2021年3月15日である。

日本大会では、地元日本から多くの参加を得るために設けた「一日参加」のローカル方式が、幸いにも IRG 本部により認められた。8月に日本木材保存協会のホームページに開設した IRG52の日本語案内において、2021年1月頃から「一日参加」の申し込みを受け付ける予定である。

## 8. おわりに

コロナ禍のため、残念ながら IRG51スロベニア大会は規模を縮小してのオンライン大会となってしまった。IRG52日本大会もコロナ禍での開催が見込まれるため、IRG52実行委員会では、対面の開催に加え対面会議と Web 開催の併用も考えながら準備を進めている。更に、対面会議での「三密」を避けるため、会場やエクスカージョンでは

席に余裕を持たすこと (定員の1/2以下のルール) などのコロナ感染防止対策を考えながら準備を進めている。実行委員一同は IRG52日本大会の実現と成功に向けて活動を進めているので、皆様方のご支援を心からお願いすると共に多くの皆様の大会参加を強く希望して本稿を締めたい。

## 参考文献

- 1) 村井まどか：日本木材保存協会第30回年次大会公開シンポジウム「日本と世界の木材保存はどこに向かうのか？」に参加して、木材保存, **40** (5), 242-245 (2014).
- 2) 今村祐嗣：第52回国際木材保存会議 (IRG52) 日本開催のご案内, 木材工業, **75** (10), 頁未定 (2020).
- 3) 松永浩史：国際木材保存会議 (IRG) から見た世界の木材保存研究の動向推移 I. IRG33 (2002) ~IRG37 (2006) を対象に, 木材保存, **44** (2), 62-66 (2018).
- 4) 松永浩史：国際木材保存会議 (IRG) から見た世界の木材保存研究の動向推移 II. IRG38 (2007) ~IRG40 (2009) と IRG Americas Regional Meeting (2008) を対象に, 木材保存, **46** (2), 66-70 (2020).
- 5) 松永浩史：国際木材保存会議 (IRG) から見た世界の木材保存研究の動向推移 III. IRG41 (2010) ~IRG44 (2013) を対象に, 木材保存, **46** (3), 121-126 (2020).
- 6) 原口隆英：第22回国際木材保存会議 (IRG 京都大会) のあらまし, 木材保存, **17** (4), 23-31 (1991).
- 7) 広報委員会：第32回国際木材保存会議 (IRG32) 奈良大会へのご案内, 木材保存, **26** (6), 44-48 (2000).
- 8) 藤井義久：IRG32Nara を終えて, 木材保存, **27** (4), 170-173 (2001).

(2020.8.24受付)